

略年譜

成田 康昭

学 歴

- 1968 年 3 月 神奈川県立川崎高等学校卒業
- 1969 年 4 月 法政大学社会学部社会学科入学
- 1973 年 3 月 同 卒業
- 1979 年 3 月 同 大学院社会科学研究科社会学専攻修士課程修了

職 歴

- 1982 年 4 月 法政大学社会学部兼任講師
- 1987 年 4 月 中京大学社会学部専任講師
- 1990 年 4 月 中京大学社会学部助教授
- 1995 年 4 月 静岡県立大学国際関係学部教授
- 1997 年 4 月 立教大学社会学部教授
- 2015 年 3 月 立教大学社会学部定年退職

学内役職歴

- 2000 年～2001 年度 社会学専攻前期課程主任
- 2001 年度 入学センター副センター長
- 2002 年～2004 年度 社会学科長
- 2006 年～2007 年度 メディア社会学科長
- 2008 年～2010 年度 キャリアセンター部長
- 2012 年～2014 年度 江戸川乱歩記念大衆文化センター長

所属学会（国内）

日本社会学会

日本マス・コミュニケーション学会

関東社会学会

情報通信学会

学外活動・役職歴

- 1996 年～2009 年日本民間放送連盟賞中央審査会審査員
- 2001 年～2002 年日本マス・コミュニケーション学会放送研究部会幹事
- 2003 年～2005 年日本マス・コミュニケーション学会編集委員
- 2004 年～2006 年朝日新聞社総合研究本部客員研究員
- 2005 年～2012 年BS-TBS（2009 年 3 月にBS-i より改称）番組審議会委員
- 2006 年日本放送文化大賞中央審査会審査員
- 2006 年～2008 年度大学基準協会判定委員・相互評価委員
- 2007 年～2009 年日本マス・コミュニケーション学会編集委員
- 2010 年度大学基準協会大学評価委員会人間社会学系専門評価分科会主査
- 2010 年度日本私立大学連盟学生委員会キャリア・就職支援分科会委員
- 2013 年～2015 年日本マス・コミュニケーション学会理事（編集委員長）
- 2014 年日本放送文化大賞東京地区審査会審査員

研究業績目録

著書目録（共著・分担執筆を含む）

- 1975 年, 「コミュニケーション過程と『記号学』」『新・日本語講座 10 ことばと文化・社会』波多野完治・野林正路編（共著）, 汐文社, 55-82.
- 1982 年, 「衣服の記号論」『講座・記号論』第四巻, 川本茂雄, 田島節夫, 坂本百大, 川野洋, 磯谷隆編（共著）, 勁草書房, 262-277.
- 1983 年, 「テレビ人間とは何か—メディアと人間」『日本のテレビ文化』北村日出夫・中野収編（共著）, 有斐閣, 101-144.
- 1986 年, 『「高感度人間」を解説する』（単著）講談社.
- 1997 年, 『メディア空間文化論』（単著）有信堂.
- 1990 年, 「豊かさのイメージと記号」『生活の豊かさと家政』長嶋俊介編（共著）, 昭和堂, 21-34.
- 2009 年, 「ヴァーチャル・コミュニティへの期待と現実」『未知なる日常への冒険』高校生のための社会学編集委員会編（共著）, ハーベスト社, 181-190.

研究論文目録

- 1977 年, 「『受容過程 and/or 意味作用』 モデルのためのノート」『新聞学評論』日本新聞学会, 第 26 卷.
- 1978 年, 「視聴者像の転換と新テレビ媒体論—長野市における受け手調査の分析から」(共著)『月刊民放』日本民間放送連盟, Vol.8 No.6.
- 1979 年, 「情報空間としてのラジオ—ラジオメディアにおける記号形式と意味作用 (1)」『社会労働研究』法政大学社会学部学会, 第 25 卷 3・4 号.
- 1979 年, 「記号空間の余剰性—ロラン・バルトの方法」『思想』岩波書店, 658 号.
- 1980 年, 「大量文化現象の構造分析'79 ウタの社会誌・大量化と個性化 (上・下)」『D・DAY』ノエル音楽出版, No.7, No.8.
- 1981 年, 「若者文化と街の意味作用—街=都市空間の記号学」『季刊・メディアレビュー』東京 313 センター・平凡社, 第 6 号.
- 1984 年, 「認知と伝達—言語社会学的方法的枠組に向けて」『社会労働研究』法政大学社会学部学会, 第 30 卷 3.4 号.
- 1987 年, 「社会現象としての『新人類』」『青年心理』金子書房, 1987 年 3 月号.
- 1988 年, 「『思想空間』と『メディア空間』—若者文化の 20 年—」『思想』岩波書店, 773 号.
- 1990 年, 「多様化する情報環境と若者意識」『月刊民放』日本民間放送連盟, Vol.20 No.12.
- 1991 年, 「カーラジオ聴取者の変容・カーラジオの機能転換と新オーディエンス」『日経広告研究所報』日経広告研究所, 138 号.
- 1993 年, 「メディア経験とコミュニケーション—パソコン通信ネットにおけるコミュニケーション満足 (I, II)」『中京大学社会学部紀要』中京大学社会学部学会, 第 7 卷第 2 号, 第 8 卷第 1 号.
- 1993 年, 「ラジオの進化と生活のなかでのメディアの多元的決定」『ResearchRepoort AURA』フジテレビ編成局調査部, 101 号.
- 1994 年, 「若者とラジオ番組—コミュニケーション機能による番組尺度」『ブレーン』誠文堂新光社, 第 34 卷 9 号.
- 1999 年, 「平準化へのラディカリズム—映画『ニッポン無責任時代』と新中間層の文化—」『応用社会学研究』立教大学社会学部, No.41.
- 1999 年, 「カラオケと歌の力」『コミュニケーション』NTT 出版, No.78.
- 1999 年, 「メディアとしての人生相談番組」『ResearchReport AURA』フジテレビ編成局調査部 134 号.
- 1999 年, 「テレビメディア空間の文化」『NIRA 政策研究』総合研究開発機構, VOL.12 NO.11.
- 2002 年, 「『信頼』の枠組み—『告発系サイト』における信頼とは何か」『インターネットにおける信頼—告発サイトの現状と構成—』, 2001 年度立教大学研究奨励助成報告書.
- 2003 年, 「インターネットにおける信頼の構造—サイト閲覧者による情報信頼性確認の戦略—」『応用社会学研究』立教大学社会学部, No.45.
- 2003 年, 「情報と信頼—インターネット閲覧者はいかにして情報の信頼性を確保するのか—」『インターネットにおける信頼Ⅱ—告発サイト調査報告—』, 2001 年度大川情報通信基金助成研究報告書.
- 2004 年, 「モダン都市の視線と乱歩ミステリー」『「国文学解釈と鑑賞」別冊 江戸川乱歩と大衆の二十世紀』至文堂.
- 2004 年, 「ネットワーク時代の『ジャーナリズム』」『朝日総研リポート』朝日新聞社総合研究本部, 173 号.

- 2004 年, 「インターネット環境におけるジャーナリズム—ジャーナリズムのタイプと受容構造の変容—」『インターネット時代におけるニュースの構造変化に関する研究』, 財団法人放送文化基金・公益信託高橋信三記念放送文化振興基金助成報告書.
- 2005 年, 「BS民放が模索する視聴者像」『月刊民放』日本民間放送連盟, 2月号.
- 2006 年, 「ネット社会で求められる新聞の役割—既存メディアのジャーナリズムに新たな公共性の展開を—」『新聞研究』, 日本新聞協会, 657号.
- 2007 年, 「デジタル化の進展がもたらすオンライン・ジャーナリズムの変容」『デジタルコンテンツの市場規模とコンテンツ産業の構造変化に関する調査研究』財団法人デジタルコンテンツ協会.
- 2007 年, 「情報課程とリアリティーメディア文化の構造—」『応用社会学研究』立教大学社会学部, No.49.
- 2007 年, 「新聞と犯罪文化—怪事件と探偵—」『江戸川乱歩と大衆の20世紀に関する総合的研究』平成16~18年度科学研究費補助金研究(基盤B2)研究成果報告書.
- 2008 年, 「コンテンツの成熟とインターネット環境」『デジタルコンテンツの市場規模とコンテンツ産業の構造変化に関する調査研究報告書』財団法人日本自転車振興会.
- 2008 年, 「『学校裏サイト』の何が問題か」『月刊少年育成』大阪少年補導協会, 通巻630号.
- 2009 年, 「ニュース接触における情報格差—インターネット・ニュースサイト利用における熟達度の影響—」『応用社会学研究』立教大学社会学部, No.51.
- 2011 年, 「『メディア文化』にとって『現実』とはなにか」『マス・コミュニケーション研究』日本マス・コミュニケーション学会, 78号.
- 2012 年, 「現実の3つの側面—オンライン空間とアイデンティティ形成—」『応用社会学研究』立教大学社会学部, No.54.
- 2015 年, 「インターネットに媒介された『現実の社会的構成』」『応用社会学研究』立教大学社会学部, No.57.

【調査報告(研究代表者)】

- 2002 年, 『インターネットにおける信頼—告発サイトの現状と構成—』2001年度立教大学研究奨励助成報告書.
- 2003 年, 『インターネットにおける信頼Ⅱ—告発サイト調査報告—』2001年度大川情報通信基金助成研究報告書.
- 2004 年, 『インターネット時代におけるニュースの構造変化に関する研究』財団法人放送文化基金・公益信託高橋信三記念放送文化振興基金助成報告書.
- 2006 年, 『インターネット・ニュースサイトのジャーナリズム機能に関する日韓比較研究(1) 科学研究費補助金(基盤研究会B)研究成果報告書分冊1.
- 2008 年, 『インターネット・ニュースサイトのジャーナリズム機能に関する日韓比較研究(2) 科学研究費補助金(基盤研究会B)研究成果報告書分冊2.

【その他】

- 1982 年, 「ラ・テ欄の意味作用」『月刊民放』日本民間放送連盟, Vol.12 No.8.
- 1984 年, 「情報感度は進化したか」『広告』博報堂, 11・12月号.
- 1986 年, 「高感度人間の周辺」『本』講談社, 8月号.
- 1986 年, 「フジテレビのノリとは何か—テレビと共振するオーデエンス」『楽しくなければテレビじゃない』(共著), フジテレビ出版.

- 1987 年, 「高感度社会の視野」『グラフィケーション』富士ゼロックス, No.31 通巻 220 号.
- 1990 年, 「多様化する情報環境と若者意識」『月刊民放』日本民間放送連盟, Vol.20, No.12.
- 1991 年, 『大衆文化事典』(共著), 弘文堂.
- 1991 年, 「カーラジオの世界・移動空間における AM ラジオ」RADIO 調査事務局基本報告書.
- 1992 年, 「近未来のメディアと社会」『名古屋テレビ放送 30 年』名古屋テレビ放送.
- 1993 年, 「生活の中での情報とラジオ」RADIO 調査事務局基本報告書.
- 1993 年, 「ニューメディアと都市生活者」『Nagoya 発』名古屋市, No.26.
- 1996 年, 「若者の〈社会化のパターン〉の喪失」『SWLI』静岡ワークライフ研究所, No.52.
- 1997 年, 「メディア・アナログな生活よ, さよなら—ハイテクの夢広がる, 楽観的で積極的だった 80 年代」『バブル 80'S という時代』, アスペクト.
- 1999 年, 『テレビ新時代のエリアマーケティング・9 つのヒント—広告主に聞く—』, 日本民間放送連盟営業委員会.
- 1999 年, 『生活学事典』(共著) TBS ブリタニカ.
- 2000 年, 「地域の少数者の復権に言語権は不可欠である」(言語権研究会編『ことばへの権利—言語権とはなにか—』言語権研究会編, への書評)『図書新聞』, 2471 号.
- 2001 年, 『民間放送 50 年史』(共著) 日本民間放送連盟.
- 2002 年, 『情報学事典』(共著), 弘文堂.
- 2006 年, 「民放のテレビジャーナリズム」, 『民間放送』, 民間放送連盟, 1 月 3 日号.
- 2009 年, 「怪事件と探偵, 並行する小説と事件報道」『センター通信』立教大学江戸川乱歩記念大衆文化センター, 第 3 号.

【シンポジウム】

- 2008 年 読売・立教女性アカデミア 21 「不安の正体をさがす」(於立教大学)(討論者)(読売新聞, 10 月 26 日付所収)
- 2010 年 日本マス・コミュニケーション学会 2010 年度春季研究発表会(於関西大学)シンポジウム 2 「メディア文化研究の課題と展望」(討論者)
- 2009 年 キャリアデザイン学会 学会記念企画シンポジウム(於千葉商科大学)
「キャリアデザインを支える力—教育と社会をつなぐ—」(報告者)